

平成29年

季刊

新春号

Vol.60

亞東



中華民國副總統 陳建仁閣下を表敬訪問（總統府）



一般社団法人亞東親善協會

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増

進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に

関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに

研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の

紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必

要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の

斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

平成二四年一二月六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、平成二五年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一二月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二十九年 新春号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	三頁
目次・協会役員名簿	四頁
大江会長の新年のあいさつ	五頁
二〇一七年元旦亜東親善協会への祝辞	七頁
亜東親善協会の台湾訪問	八頁
「亜東親善協会」の大江康弘会長ら一行が 陳建仁・副総統を訪問	一二頁
「亜東親善協会が台湾人留学生と 国会議員との懇談会」を開催	一三頁
亜東親善協会役員の研修懇談会	一五頁
『全国日台友好議員協議会設立に想う』	一六頁
平成二十九年謹賀新年名刺広告	一八頁
事務局だより	二二頁

平成28年5月12日

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長 (理事以外)	1名	玉澤徳一郎			
参 与 (理事以外)	1名	橋本 靖男			
会 長 (代表理事)	1名	大江 康弘			
副 会 長 (理 事)	4名	山本 順三	張 建国		
		張 碧華	多 忠和		
		赤松 則宏			
専務理事	1名				
業務執行理事	4名	藤山 雅康			
〃		並木 正芳			
〃		柴田 徳文			
〃		笹岡 恭亮			
理 事	10名				
崎谷 秀彦	小松 省二	益山 茂	松永理恵子	三浦 信行	伊野 雅晴
山口 裕志	森 康郎	永島 剛士	小山 博史		
監 事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一		
事 務 局		崎谷 秀彦			
		李 孔曉			

一般社団法人 亜東親善協会

大江会長の新年のあいさつ

会長 大江 康弘

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は、大変お世話になりました。心より感謝と御礼を申し上げます。

「世界は大きく動いている！」そんな実感を身体全体で感じる「今」です。

そのような激動の時期ときに政治の現場を離れていることを情けなく反省の想いで新年を迎えました。

人生、与えられたその時々ときの環境を「我が身の運命」ととらえるのか、また、「これは試練である」ととらえるのかは、人それぞれであります。私はそれを「試練」と受け止め、今のこの環境を変えていく第一歩の年として、今年は歩んで行きたいと思っています。

そのような年に登場したアメリカのトランプ大統領の就任は、何かしら世界レベル地球レベルで大きな変化を生む！そんな気がしてなりません。

それは彼の選挙期間中からの一連の発言です。

我々の大切な中華民国台湾への彼のメッセージは、時を動かす大きなインパクトがあり、同時に「至極当然」な発言であり、共感を覚える一人です。

時あたかも安倍総理が、自らの信念意志で、昨年末にロシアのプーチン大統領と会い、日・口関係が大きく前進しまし

た。

「領土問題で解決がなかった」と批判する一部の国民やマスコミもありますが、今流行りの言葉で言えば「日本ファースト」。

今までは、ややもすれば特に安全保障（領土問題は最たるもの）に関する交渉事に対しては、同盟国アメリカから注文が来て、干渉や圧力がかかったりしてきたロシア関係が、安倍総理の政治判断で、新たな二国間関係がスタートしたことは、大きな成果であります。

新自由主義を唱えるシカゴ学派が生んだグローバリズムというものが、世界的に多くの国に格差社会を作り、退潮していく中で、その負の遺産が、それぞれの国家の発展や全身にブレーキをかけている、妨げている状態で生まれてきた「保護主義」と言われる概念。一見、エゴイズムに聞こえるこの思想が、それぞれの国家を再生させていく政策、キーワードと成り得るような流れになってきました。

もちろん、日本は資源輸入国であるので、各国との協調は大切ですが、まず、しっかりと自国民が生きていける基礎や土台を作ることが、今の政治に求められていると思います。

そういう意味合いでは、「日本ファースト」「保護主義」の目に見える形が、どの国にも圧力を受けないで作り上げたロシアとの関係であったと思います。

そのような中で、いろいろな国との関係もありますが、私は「中華民国台湾ファースト」。まず、各国の協調のなかでも、その見本的モデルは日・台関係にしていきたいと思っています。

幸い、先人や先輩また、市井の多くの皆さんのおかげで、その基礎は立派に出来上がっています。

私は、自らの天命として、また、生きていく目標として、永年信じて交流を続けてきた中華民国台湾との友好親善のために、更に今年も力一杯、努力をしてまいりたいと決意しています。

どうか、本年も引き続き、我が協会に対しましても、尚一層のご指導ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

今年一年も、会員、ご家族の皆様方にとって、良き年でありますよう心よりお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。



二〇一七年元旦亜東親善協会への祝辞

台北駐日経済文化代表処代表 謝長廷



亜東親善協会の皆様、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

亜東親善協会は一九四九年に設立されて以来、あらゆる面で台湾との交流を着実に進めて来られました。昨年五

月、台湾は八年ぶり三度目の政権交代となり、台湾初の女性総統、蔡英文総統が就任しました。蔡総統は台日関係を極めて重視しており、私を駐日代表として任命しました。

私は台湾の駐日代表として日本に着任してから、六カ月あまりが経ちました。台日関係はこれまで歴代駐日代表のためまぬ努力の下、良好な関係を築き上げてきました。台日両国の観光客の往来は年間六〇〇万人を超え、毎週七〇〇便以上の航空機が台日間を結んでおり、年々記録を更新しています。特に台湾から日本を訪れた観光客はのべ四〇〇万人に達し、年に台湾人口の六分の一以上の人が日本に観光に来ていることとなります。また、文化交流の面で、昨年一二月から台湾・嘉義県の国立故宫博物院南部分院で東京国立博物館と九州国立博物館の国宝級文物の特別展が始まり、文化交流の新局面も迎えました。

正式な国交関係がない中、民間の関係がこれほど緊密であるのは、ひとえに過去の台日両国の皆様の努力の積み重ねが

あってこそのものであり、ここに深く感謝申し上げます。私もこの積み重ねの上に、さらなる台日関係の発展を目指して、邁進していきたいと願っております。

台湾と日本は歴史のおよび地理的に近く、様々な経験を分かち合っています。昨年一月より日本で公開されている台湾のドキュメンタリー映画『湾生回家』はまさにこのような台日関係を物語っています。その映画には、戦前台湾で生まれ育った日本人が台湾に里帰りし、懐かしい台湾の友人を訪ねる様子が描かれており、台湾と日本の古くからつながる友情が、改めて感動を呼んでいます。去年一二月一五日の『湾生回家』国会上映会にも、亜東親善協会を始め、多くの日本の友人に参加していただきました。これによって、更に多くの日本の方が台湾と日本との歴史的繋がりへの深さを理解するようになったことを、大変うれしく思います。

私は今までいろいろ職を歴任しましたが、外交官として日本に駐在することは始めてであり、私にとって非常に重要な一ページとなっています。今後、台日両国の架け橋として、双方の絆をより強化させるよう全力を尽して取り組んで参る所存でありますので、引続きお力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、長年来亜東親善協会の皆様から多大なご支援、ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念し、併せて台日友好の更なる発展を願い、新春の挨拶とさせていただきます。

亜東親善協会の台湾訪問

亜東親善協会理事 森 康郎

一月一七日午前七時一〇分。羽田空港発中華航空CI二二三便にて、台湾の松山空港へ向けて出発。羽田空港は早朝ということもあって肌寒いほどでしたが、松山空港は一月だというのに二六度という夏日の真只中。毎度のことですが、温度差に台湾を実感。出迎えのバスで、今回の宿所である国賓大飯店に向かい、現地参加者の方々と合流した後、老爺大酒店で催した亜東親善協会主催の昼食会に参加。台湾側からは邱義仁亜東関係協会会長、蔡明耀亜東関係協会秘書長、日本交流協会からは沼田台北事務所代表、小松庸人主任が臨席され、大変和やかな昼食会でした。

午後三時、蘇嘉全立法院院長を表敬訪問するために立法院を訪れました。立法院長から亜東親善協会が果たしている民間交流に対して感謝のお言葉を頂戴し、亜東親善協会を代表して大江康弘会長が日台関係の更なる深化に向けた決意を述べられ、非常に有意義な表敬訪問になりました。

さて、立法院訪問は何度目になるだろうか。何度訪れても、この地に降り立つと遠い故郷に思いを馳せるがごとの郷愁に似た思いが込み上げてくるのです。

台湾の立法院は日本植民地時代の学校の跡地を改修して使用しています。以前訪問したときに、トイレに立ち寄ったことがありますが、そこは、我々の記憶にある学校のトイレそ



蘇嘉全立法院院長と

のものの雰囲気でした。今回は見学できませんでしたが、敷地の一番奥にある議会棟は、私の記憶が正しければ確か学校の講堂であったように思います。

台湾を訪問するたびに考えさせられることがあります。それは、韓国との違いです。台湾は植民地時代の建造物を再利用し、そのことに誇りを持つているように感じます。しかし、かの地韓国では植民地時代の建造物などは屈辱の歴史の象徴

であるとして破壊してきた事実があります。周知のごとく、現在でも日韓関係は微妙な位相を示していますが、毎度のことながら、立法院を訪問するたびに、植民地時代の受け止め方の違いを考えさせられるのです。ちなみに、小生は朝鮮半島地域研究の専門家でもあります。

宿泊先の国賓大飯店に戻り、午後六時から国賓大飯店において蔡明耀亜東関係協会秘書長主催の夕食会。美味しい料理、美味しい酒を堪能して大満足。終了後は、自由時間。皆それぞれ思い思いの時間を過ごすことになりました。

小生はというと、小生が勤務する早稲田大学は台北事務所を開設しており、一二月に事務所長の新旧交代があるので新旧事務所長と一緒に、本日最後のメはウイスキーということ、バーに向き散々飲むことになりました。

翌日（一月一八日）、昨夜の深酒による二日酔いの兆候もなく健やかに朝食をとり、九時過ぎにホテルを出発。陳建仁副総統を表敬訪問するために総統府に向かいました。国民党の時代には、亜東親善協会の表敬訪問は総統が出席されていましたが、民進党政権になると副総統に対する表敬訪問になり少し残念。できれば蔡英文総統にお目にかかりたかったのですが、総統は御多忙だったのでしょう。陳建仁副総統は相当なインテリであるとのことでしたが、実際にお目にかかって見て、温厚な学者の雰囲気そのものでした。

和やかな雰囲気の下に表敬訪問を終えた後に向かった先

は、昼食会場のタイ料理店。中華料理の本場である台湾に来て、タイ料理を食するというのには若干の違和感がありましたが、小生が不平を言うのものはばかられるので小言も言わずに黙々と料理に集中することに。台北では有名なタイ料理店とのことで大変な繁盛ぶりでした。しかし、果たして台湾風タイ料理なのか、本場のタイ料理なのか、タイ料理に不案内な小生にとっては判別不能でしたが、確かに美味ではありません



陳建仁副総統と

した。美味しい食事はすべてのモノを許容するので、オーケーでした。

楽しい昼食の時間を堪能した後、新竹県に向かいました。

新竹県は産業技術研究の集積都市です。台湾最大の産業技術研究開発機構である財団法人工業技術研究院（ITRI・Industrial Technology Research Institute）を訪問。日本でいうならばNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）に対応すると考えられますが、規模や職員数においては比較にならないほどの大規模な組織でした。ITRIの職員数は六、〇〇〇名規模ですが、将来的には二倍程度に拡大する計画とのことで、博士研究員も数多く在籍しており研究者の層の厚さに驚愕するほどです。ITRIには以前にも訪れたことがありましたが、その時点から比較しても急激な発展を遂げており、将来的には世界で最高レベルの研究組織体に成長していくものと考えられます。楊馬田博士（研究戦略担当の副所長）より、研究概要の説明を受けましたが、非常に考えられた研究開発の枠組みを採用しており、近々に画期的なイノベーションが生まれてくる可能性を実感できました。小生にとっては、最も実りのある視察でしたが、もう少し時間を取って見学したかったというのが個人的な本音。

ITRIでは、小生にとって意外な出会いがありました。埼玉県産業振興公社から高野正則氏がITRIに Outreach してきていたのです。実は、小生の関係する早稲田大学ナノライフ創

新研究機構に対し、埼玉県から平成二五年度〜平成二七年度の三年間にわたり、多額な研究補助金を頂戴し（内緒の話ですが、五億二、〇〇〇万円も獲得したのです）、早稲田本庄キャンパスにおいて蓄電技術の実証実験を実施させていただきました。

自慢話になりますが、その事業は世界的に著名な『ネイチャー』誌に紹介記事が掲載されました。さらに、本来的には無理な話なのですが、同誌の日本支社の御配慮で、上田埼玉県知事の顔写真と挨拶文まで掲載して頂いたのです。同誌は国際的に最も権威のあるジャーナルであり、埼玉県はエコタウンを目指す地域として国際的に有名になったと思います。さらに、研究成果はハワイの学界でも発表しましたので、埼玉県に対しては十分なご恩返しができたと考えています。

夕刻になり、邱鏡淳新竹県長主催の夕食会にお招きにあずかりました。素晴らしい新竹県の地方料理に舌鼓をうち、美味しい紹興酒も存分に味わうことができ、とても幸せな気分です。台北までの帰路を熟睡することができました。さてさて、新竹県のビーフンは、本当においしいですね。

一月一九日は台湾訪問の最終日です。今回の台湾訪問で良かったのは、日程に余裕がありゆったりとした気分が台湾を実感できたことです。朝の集合時刻までに時間的な余裕があったので、遅めの朝食をとりました。ホテルをチェックアウトして、向かった先は一〇一ビル。そこで昼食。朝食が胃

の中を動き回っているのに、また昼食ですかと思いつつ、台湾料理を堪能。数時間のうちに二回も食事をとったことになります。その後、台湾市内の観光スポットを散策した後に、出発時刻には少し早目でしたが、松山空港へ向かいました。そこでも台湾名物の牛肉麵を食する強者もいて、脱帽です。小生は、赤松理事のアドバイスに従って、バックされた牛肉麵を免税店で購入。正月中にでも台湾を思い出して食べるかなと思案中です。

午後一〇時過ぎに、全員無事に羽田に到着。小生にとっては、約一〇日ぶりの日本です。何故ですって。小生は一日から一六日まで韓国出張だったのですよ。一六日の深夜に羽田に到着、羽田で一泊した翌朝、台湾へ向けて出発したのです。したがって、ヘトヘト。翌日は早朝から日程があり、それを考えると少し憂鬱になりましたが、楽しく有意義な台湾訪問ではありました。

末尾になりましたが、台湾訪問を企画された大江康弘会長をはじめとして、担当理事の皆様、事務局の李孔暁さん、そして台湾訪問で一緒にさせて頂いた皆様には大変お世話になりました。心から御礼を申し上げます。来年も日程が合えば、ぜひ参加したいと存じます。



新竹市「工業技術研究院」にて

「亜東親善協会」の大江康弘会長ら一行が陳建仁・副総統を訪問

陳建仁・副総統は一月一八日、「一般社団法人 亜東親善協会」会長の大江康弘・元参議院議員ら一行と会見し、あいさつの中で「台湾と日本は一衣帯水の隣国であり、『運命共同体』と言うことができる。両国は地震や台風などの深刻な自然災害が発生した際には、まっ先に手を差し伸べ、互いに支援し合っている。双方の国民感情もきわめて密接であり、これは台日間において最も貴重な点である」と強調した。

また、「台日間は文化、地方、経済など各交流活動を通して、相互理解と友好関係が互いに深まっており、これは双方の実質的関係の強化にとって重要である」との考えを示した。台日の青少年交流についても言及し、「これは次世代の人々がより一層密接な友好関係を構築していく上でプラスになる」と説明し、「教育（修学）旅行は、台日友好関係を永く伝えていくのに寄与する」と述べた。

【総統府 二〇一六年一月一八日】

写真提供：総統府

（台湾週報より転載）



「亜東親善協会が台湾人留学生と国会議員との懇談会」を開催

発信日時：二〇一六・一一・二二
(最終更新：二〇一六・一一・二四)

「一般社団法人 亜東親善協会」(以下、亜東親善協会)は十一月二二日、台湾人留学生と日本の国会議員との懇談会を東京・永田町にある参議院議員会館の会議室で開催した。参加した二三人の留学生たちからは、「環太平洋パートナーシップ協定」(TPP)に対する日本の今後の取り組みについて、東アジアの安全保障に関する見方についてなどの質問が挙げられた。

亜東親善協会の大江康弘・会長はあいさつの冒頭で、十一月一八日に同協会のメンバーらと共に台湾を訪問し、陳建仁・副総統らと会見したことなどを紹介した後、「日本での経験や体験を作り上げている友人や仲間を大切にして、これからの日台友好に繋げていってほしい」と述べた。

懇談会に出席した鶴保庸介・沖縄北方／科学技術担当相および山本順三・参議院議員はそれぞれ、現在の台日関係の深化を強調し、日本で様々な人間関係を築き、台日交流の架け



懇談会には留学生二三名が参加した

橋になってほしいと期待の意を表した。懇談会には台北駐日
経済文化代表処から政務組（部）の黄明珠・副部長、教育組
（部）の黄聖明・主事らも出席した。

留学生たちは自己紹介の中でも、「留学生として、台湾を
より多く知ってもらえるよう努力していきたい」、「台日の架
け橋として、双方間がさらに深く繋がることのできるよう努
めていきたい」など抱負を語った。懇談会の後には、国会見
学も行われ、留学生にとり日本の政治に触れる貴重な機会と
なった。

《二〇一六年一月二二日》

（台湾週報より転載）



国会見学を終えた留学生たち

亜東親善協会役員の研修懇談会

郭仲熙・駐日副代表が亜東親善協会の理事会（懇談会）に出席

台北駐日経済文化代表処の郭仲熙・副代表は二月一日、「一般社団法人 亜東親善協会」（以下、亜東親善協会）が都内で開催した理事会（懇談会）に出席し、あいさつの中で、台日関係が飛躍的に発展し続けており、双方間の「絆」を大切にし、さらなる関係発展を目指していくとの考えを示した。

さらに、「台湾を取り巻く国際環境は変わり、厳しいものがある」と強調し、台湾の国際組織および活動への参加、とりわけ経済面において、「環太平洋パートナーシップ協定」（TPP）への参加、日本との経済連携協定（EPA）締結を目指していると説明した。その上で、「日本との経済協力をさらに



郭仲熙・駐日副代表

深化させ、地域の経済発展に貢献できるよう取り組んでいきたい」と述べ、台湾に対する日本の支持を呼びかけた。

亜東親善協会の大江康弘・会長も、「台湾は今年五月に新しい政権になり、台日友好が新しいステップに入った」と述べると共に、台湾の国際空間を広げていく環境作りのために民間組織である亜東親善協会の活動も重要であると強調した。

理事会（懇談会）の中では、「現在の日台関係について」をテーマとした研修も行われ、亜東親善協会のメンバーである国会議員らも出席した。



あいさつする大江康弘・亜東親善協会会長

（台湾週報より転載）

『全国日台友好議員協議会設立に想う』

全国日台友好議員協議会理事長 安達 前

あけましておめでとうございます。大江康弘会長を中心に亜東親善協会で活動される方々に改めまして敬意を表します。

昨年の暮れに、台湾の蔡英文総統とアメリカのトランプ次期大統領との電話会談が報じられました。日台交流に取り組んでいる一人として大変喜ばしく感じた次第であります。東南アジア情勢の中で、今後の政治活動における台湾の立ち位置が大変重要になってくる予感がしております。

なぜ日本はこんなに台湾と深い関係にあるのに国交がないのか、地方と台湾各都市との交流活動が日毎に活発化しているのになぜ国交正常化が進まないのかという想いの中で、全国の地方議員はそれぞれ日台交流を促進すべく議員連盟を立ち上げ行動してきました。そこで、全国で日台交流推進のために行動している地方議員が一斉に集い、全国日台友好議員協議会を設立することといたしました。設立総会は、昨年の五月に福岡県議会において加地邦雄福岡県議員が設立総会議長となり開催され、初代会長に藤田和秀名古屋市長議員を選任して発足いたしました。

それに先駆け、一昨年の八月には第一回の全国日台交流サミットを金沢市で開催し、昨年の九月には第二回大会が和歌山市で開催されました。和歌山市でのサミットは、日台友好

和歌山市議会議員連盟会長である遠藤富士雄和歌山市議会議員が大会実行責任者となり二日間盛大に開催され、全国各地はもとより台湾本土からも大勢の関係者が集結して、日台交流の絆をさらに深めた次第であります。

これらの日台交流サミットは大江康弘会長の大きな尽力により実現されたものであり、特に和歌山でのサミット開催は、大江先生のお膝元でもあり、本来ならば大江先生の晴れ舞台となるはずでしたが、皆様ご存じのとおり参議員議員選挙は残念な結果となりました。しかし、私たちは大江先生こそが台湾との国交正常化への大きな力となるべき方だと思っておりますし、いずれ大江先生が国政において実行力を発揮する機会が必ず来ると信じております。

我々が今後さらに日台交流の発展を進めていくとき、大江会長を始めとする亜東親善協会の活躍こそがその道の到達点と考えております。全国日台友好議員協議会は生まれたばかりの組織ではありますが、亜東親善協会の方々にはなにとぞこの協議会をお育て願ひ、日台交流の推進役として共に活動していきたいと念じております。また、全国日台友好議員協議会としては、全国の地方議員の参加を求めています。共に日本と台湾の国交正常化へ向けて地方からその声を発信していきたいと考えております。この一〇月には藤田会長と共に民進党柯建銘幹事長と会談することができました。柯幹事長は政権の実力者として期待されており、今後の全国日台友



台湾国慶節にも参加

好議員協議会の発展に協力していただけるようお願いを申し上げて参りました。

ことは、第三回の全国日台交流サミットを熊本市で開催いたします。全国で日台交流活動を推進している地方議員など関係者が大勢集い、また、熊本の復興を願う大会になればと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

大江会長を始めとする亜東親善協会の皆様方のご発展を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



和歌山サミットで全口同志と共に乾杯

平成二十九年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>台北駐日經濟文化代表處 橫濱分處 處長 粘 信士</p> <p>橫濱市中区日本大通り六〇 朝日生命横濱ビル二階 電話〇四五(六四一)七七三七</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 處長 陳 訓養</p> <p>大阪市西区土佐堀一―四―八 日栄ビル四階 電話〇六(六四四三)八四八一</p>	<p>公益財団法人交流協會 理事長 今井 正</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 代表 謝 長廷</p>
<p>自由民主党副幹事長 衆議院議員 伊東 良孝</p> <p>東京都千代田区永田町一三二―二―一 衆議院第一議員會館六二三号 電話〇三(三五〇八)七一七〇 FAX〇三(三五〇八)七一七七</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 陳 桎宏</p> <p>札幌市中央区北四條四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一(二二二)二九三〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處長 蘇 啓誠</p> <p>那霸市久茂地三一―五―九 アルテレビル那霸六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處長 戎 義俊</p> <p>福岡市中央区桜坂三―二―二四二 電話〇九二(七三四)二八二〇</p>
<p>參議院議院運營委員長 參議院議員 山本 順三</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 參議院議員會館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一九</p>	<p>衆議院內閣委員長 衆議院議員 秋元 司</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員會館五二四号室 電話 〇三(三五〇八)七三三七 FAX 〇三(三五〇八)三三三七</p>	<p>自由民主党經理局長 衆議院議員 吉川 貴盛</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員會館二〇二号室 電話〇三(三五〇八)七四五一</p>	<p>自由民主党副幹事長、団体総局長 衆議院議員 井上 信治</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員會館三二七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八</p>

平成二十九年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>日本国際協力財団名誉会長 元衆議院議員</p> <p>大野 功統</p> <p>東京都世田谷区東玉川一―二二二 電話〇三(三七二六)〇八八八</p>	<p>一般財団法人 台湾協会</p> <p>理事長 森田 高光</p>	<p>台湾観光局東京事務所</p> <p>所長 鄭 憶萍</p> <p>〒一〇五―〇〇〇三 東京都港区西新橋一―五―一八 川手ビル三階 電話〇三(三五〇一)三五九一 FAX〇三(三五〇一)三五八六</p>	<p>中華民國留日横濱華僑總會</p> <p>會長 羅 鴻健</p> <p>理監事一同</p> <p>神奈川県横浜市市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八一)二二一四 FAX〇四五(二一〇一)二八五五</p>
<p>学校法人 横濱中華學院</p> <p>校長 馮 彦國</p> <p>横濱市中区山下町一四二番地 電話〇四五(六八一)三六〇八 FAX〇四五(六七二)一〇七〇</p>	<p>チャイナエアラインズグループ (株)ダイナスティ ホリデー</p> <p>代表取締役社長 石 炳煌</p> <p>東京都中央区銀座一―九―七 陽栄銀座第二ビル五階 電話〇三(五五二四)〇八八〇</p>	<p>株式会社ホテル横須賀</p> <p>代表取締役 長尾 和典</p> <p>横須賀市米が浜通り二―一七 電話〇四六(八二五)一一一 FAX〇四六(八二五)一一一三</p>	<p>有限会社沖山興業</p> <p>代表取締役 沖山 建夫</p> <p>東京都八丈島八丈町三根一八一―一五 電話〇四九九六(二)〇二二一</p>
<p>木下工業株式会社</p> <p>代表取締役 木下 和昌</p> <p>大阪府大阪市中央区北新町三番四号 電話〇六(六九四六)〇〇七八 FAX〇六(六九四六)〇五〇三</p>	<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究協会</p> <p>会長 高野 邦彦</p>	<p>株式会社和興産業</p> <p>代表取締役 千葉 祐三</p> <p>東京都文京区千石三―一四―一八 サンセチア文京四〇二 電話〇三(三九四一)〇〇二八 FAX〇三(六九九九)七〇三九</p>	<p>金沢市日台親善議員連盟</p> <p>会長 安達 前</p> <p>金沢市馬替二丁目一九〇―六 電話〇七六(二九八)三五〇三 FAX〇七六(二九六)一六六八</p>

平成二十九年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 建国</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 会長 大江 康弘 東京都中央区銀座六一三二一六 ウオールビル五〇五 電話〇三(六二七八) 八六九〇 FAX〇三(六二七八) 八三三三〇</p>	<p>クラシックカー販売 長龍貿易(株) 代表取締役 榎本 有里 埼玉県新座市中野二一七一五 電話〇四八(四七七) 三五五八</p>	<p>友盛貿易株式会社 代表取締役社長 鄭 尊仁 横浜市中区太田町二一三二一 電話〇四五(二二六) 二二九八 FAX〇四五(二二六) 二二八九</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 程 金笙</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 専務理事 赤松 則宏 東京都千代田区外神田三十七一七 電話〇三(三二五七) 〇〇三三一</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 崎谷 秀彦</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 柴田 徳文</p>	<p>留日東京華僑婦女会会長 一般社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥 練馬区中村南三二二二二 電話〇三(三三三七) 一一一三三</p>	<p>あざみ野ロウンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あざみ野二一九一 電話〇四五(九〇一) 九〇一一 FAX〇四五(九〇一) 二〇四一</p>	<p>学校法人電子学園 日本電子専門学校 学園長 多 忠和 おのおの ただかず</p>

平成二十九年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>医療法人社団博翔会 会長 小山 博史 〒三六四一〇〇〇一 埼玉県北本市深井五丁目六六番地 電話〇四八(五四三)一〇一一 FAX〇四八(五四三)一三三六</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 森 康郎</p>	<p>元内閣府大臣政務官・(元衆議院議員) 一般社団法人亜東親善協会 業務執行理事 並木 正芳 埼玉県所沢市泉町一七九三―一三 電話〇四(二九二四)八〇五〇</p>	<p>東光不動産株式会社 代表取締役 山口 裕志 東京都渋谷区富ヶ谷二―一―五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九〇</p>
		<p>エイチアイインターナショナル株式会社 代表取締役 李 ハロルド 東京都新宿区新宿五―一七―一八 電話〇三(三三〇三)〇一一一 FAX〇三(三三〇三)〇一一九</p>	<p>株式会社永島製作所 代表取締役 永島 剛士 石川県羽咋市寺家町タ一番九 電話〇七六七(二二)七〇一一 FAX〇七六七(二二)七〇一一</p>



事務所だより

二〇一七年一月活動のお知らせ

*シアター・コモンズ東京 北投／東京ヘテロトピアの出会い

三日間にわたり、ワリス・ノカン、陳又津、温又柔、菅啓次郎ら四名の作家らが『北投ヘテロトピア』および『東京ヘテロトピア』を朗読するほか、日本人アーティスト高山明によるレクチャー・パフォーマンスを行い、映像と合わせて二つの作品の問題意識と思想を表現します。三日目は許芳慈キュレーターと鳳甲美術館の蘇珀琪館長が同イベントの制作理念を語ります。

一月二七日(金)～一月二九日(日)

台湾文化センター

※開演時間等の詳細は、台湾文化センターのウェブサイトの後日発表します。

<http://jptaiwan.culture.tw/>

*新春互礼会の開催

ザ・キャピトルホテル東急

平成二九年二月二日(木) 一七時から講演会

*定例総会及懇親会

ルポール麹町

平成二八年五月一〇日(水) 一六・〇〇～(予定)

*新入会員のご紹介 平成二八年十一月～二八年十二月

金谷愛子、岩田善信、畠山ヨシカズ

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成29年 新春号 (No.60)

発行日 : 平成29年1月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : <http://www.atoushinzen.com>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の翼 チャイナエアライン

なら、うまくいく。



ビジネスはチャイナ エアラインで
www.china-airlines.co.jp

